

計画期間 令和3年度～令和7年度までの5年間

## 現状と課題

### 1 食生活

- ・ライフスタイルや家族形態の変化、食の外部的化  
→ 食生活の乱れ（欠食、孤食、個食、固食）
- ・加速するコメ離れ（消費量10万t減/年）  
→ 日本型食生活の再認識

### 2 健康づくり

- ・子ども世代の心が元気な人の割合の減少  
→ 前々回から減少傾向／心と体の健康が大切
- ・健康づくり推進員の活躍  
→ なり手不足／重要性を再認識

### 3 食の生産と安全・安心

- ・多種多様な農産物  
→ 生産者の高齢化／安定した出荷体制の維持
- ・食品の安全性  
→ 食関連情報に対する理解、アレルギーへの配慮

### 4 食文化

- ・魅力的な郷土食、郷土料理  
→ 郷土食伝承に向けた取組みの継続／後継者不足
- ・芋煮を作ることができる人は57.4%  
→ 前回から13.8%の減少／伝承が危惧

### 5 地産地消

- ・日本の食料自給率38%  
→ 食料供給側として地産地消をリード
- ・学校給食の町内産農産物使用割合43.4%  
→ 生産者や納入業者との連携強化、米飯給食の実施

### 6 食への意識

- ・食生活の基本は「家庭」  
→ 食の基本習慣の習得（楽しみ、あいさつ、作法）
- ・おにぎりデー、弁当の日  
→ 学校での体験など取組みの継続や発展
- ・環境への配慮（食品ロス、SDGs）  
→ 「もったいない」／持続可能な取組み

キャッチフレーズ 毎月19日は「家族団らんの日」

## 具体的な取組み

### ライフステージごとの食育・地産地消

- 食習慣等は長い時間をかけて形成される
- 生涯にわたり健康で楽しく過ごすためには、ライフステージごとに「食」や「農」に関心を持ち、学びながら生活することが大切

- 『子ども期』… 生活や体験により、食や農の基礎をつくる時期  
(例：おなかが空く生活リズム、食事の手伝い)
- 『働き盛り期』… 健康への関心を高め、食や農を実践する時期  
(例：仕事や家事と食生活のバランス、郷土食の実践)
- 『高齢期』… 食や農への理解を深め、次世代へ伝承する時期  
(例：体調に合わせた生活、技術や文化の伝承)

### 生活シーンに応じた食育・地産地消

- 日々の暮らしの中で食育・地産地消を実践していくためには、生活シーンに応じ、それぞれが協力しあいながら取組みを進めることが大切

- 『家庭』… 食習慣や味覚形成に大きな影響をもつ  
→ 家族みんなで食に関する知識を高め、子孫へ継承  
(例：農ある暮らし、地域行事への参加、家族団らんの食事)
- 『学校』… 子どものころの体験や学習が重要  
→ 共同生活や体系的な学習、学校給食の取組み  
(例：おにぎりデー、弁当の日、給食への地元食材の活用)
- 『地域』… 食文化は行事や風習とともに形成／消費者と生産者の相互理解  
→ 地域ぐるみの取組み、食や農の体験の場（信頼関係構築）  
(例：6次産業化の推進、「SHIRATAKA RED」の推進、食の研究会  
職場における食育等の推進)

## 新しい生活様式への対応

- コロナ禍では「家庭」の役割がより一層重要  
→ 家庭でも実践しやすい取組みを推進
- 『家庭菜園』… 「農」身近に体験／最小単位の地産地消の実践
- 『SNSの活用』… 新たな情報発信スタイルの形成

基本理念

豊かな自然と農ある暮らしに感謝し、健やかな心と体を育み、笑顔かがやき、未来へつなぐ食文化のまち